

救急科に通院中の患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 偶発性低体温症に対する体外式膜型人工肺(ECMO)の有用性についての学会主導多施設共同前向き観察研究

[研究機関名・長の氏名] 北海道医療センター 菊地 誠志

[研究責任者名・所属] 七戸 康夫 救命救急部長

[研究代表機関名・研究代表者名・所属] 旭川医科大学 高氏修平 救急医学講座

[共同研究機関名・研究責任者名] 北海道大学病院 救急科 早川峰司

[研究の目的]

偶発性低体温症とは寒冷暴露などによって発症し、重症な例では死亡にいたる重大な疾患です。海外では近年、この高度偶発性低体温症に対して体外式膜型人工肺(ECMO)と呼ばれる機械を用いて復温する治療がされていますが、この治療の実態については未解明な点が多くあります。本研究は北日本を中心とする多施設において、高度偶発性低体温症に対する体外式膜型人工肺(ECMO)の有用性について検討することを目的としています。

[研究の方法]

2019年4月1日から2022年3月31日までに北海道医療センター救命救急センターを含む下記の救急医療施設において、偶発性低体温症と診断された18歳以上の患者さんが対象となります。各医療期間の診療録の中において、性別、年齢、日常生活動作(発症前)、居住環境、基礎疾患、内服薬、アルコール有無、発生日時、外気温、発生場所(屋内・屋外)、原因、来院までの時間経過、来院手段、バイタルサイン、血液検査結果、画像、心電図、復温治療法および転帰に関する情報を匿名化して、北海道大学病院のEDC(Electronic Data Capture) systemにWeb上で登録します。その後、「偶発性低体温症における体外式膜型人工肺(Extracorporeal membrane oxygenation; ECMO)の有用性についての学会主導多施設共同前向き観察研究グループ」にて集計・解析を行い、予後について検討を行います。

研究機関名：

旭川赤十字病院 救命救急センター 小林巖

名寄市立総合病院 救命救急センター 稲垣泰好

旭川医科大学病院 救命救急センター 高氏修平

北海道大学病院 救急科 早川峰司

北海道医療センター 救命救急センター 七戸康夫

市立札幌病院 救命救急センター 佐藤朝之, 坂東敬介

帯広厚生病院 救命救急センター 山本修司

市立釧路総合病院 救命救急センター 其田 一

砂川市立病院 救命救急センター 富田明子

上記の他に日本救急医学会指導医指定施設、救命救急センター、大学病院ならびに市中の救急部の中で研究への協力が得られた救急医療施設

[研究実施期間] 実施許可日～2022年3月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができません。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に検体・情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

札幌市西区山の手5条7丁目1-1

北海道医療センター 救急科 担当医師 七戸 康夫

電話 011-611-8111 (代表)